

卒都遺文

照和改訂版
内十三

特259

484

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始



卒都婆小町

(梗概) 紀州高野山の住僧、都へ上の途次桂川の邊りより到りてに、其様憔悴せる老嫗朽ちたる卒都婆に腰を下して憇ひけり、僧は勿體ないと思ひ他の處より休めよと咎めけるに、老嫗は平然として、佛果菩提の道を説き、順逆二道の理を明らかに述べて聊かも屈する色なかりければ、お僧は内心に驚き其の悟れる事の凡夫を超越一けるに感ず、禮拜讚歎せり。老嫗は更に「極樂の内ならばこそ悪しからめ、そとは何かは苦一かるべき」と戯れの一言を詠じけきば、僧は愈々怪しみて其名を問へは我こそ小野小町が爲れる果なれと名宣り、昔の艶麗驕慢の情を物語り、今の落魄窮命を歎く内、心狂はしく、深草の少将の小町が許に通ふ事九十九夜となりたるに、殘る一夜を欺かれて失戀の爲め死いたる少将の怨念に驅られて、今う様の姿になり果たるを歎き、懺悔の心顯へられければ、お僧の讀經の功力に依り、遂には諸共よ佛果を得せしむるに至れり。

シテ 小野小町

ワキ 高野山の僧
ワキツレ 全 従僧

季 所
不定 山城

卒放婆小町

木山木山はゆ家乃ゆきや心ある

らんわき是是はす野徑山乃やかせ門よすひ雲

仙臺仙臺射射事事詔詔の爲爲只只今今都都へよりゆ
史史而而仙仙院院よ志志後後佛佛以來來此此よ出出だだ第第
れ申申るよ生生れよて何何を現現と思思ひべき道道

まよひを人ぬけ身難をめあら
敵はよ遠事乞そ物ま比候たまむ
思ふをもひとへやる所のむよ身わも
て生れぬされ乃自身わまれば
もべき娘もあひ親乃あきまく我身も
をもあひてあら
ちゆ理をあつもあら

せきとく、鶯草乃御所と申すや
かよじて楊柳のまじ風よなびくらわし
又鳴舌せめりハ声をかくめるゑみ乃
うそばうりふる初る花よりも珍稀ノヤ
今ハ民守防れぬよナシカアもまれ諸人
は心をそぞり、旅一ヶ月日暮よ候

志
つゝ百年の城とありて候ふ
人めほゝまゝやもゝもまとり夕る等
上月詠せよ出そゆく歩
大山の山すもかほ草木身はよもと
め、本山きてよしもや身の葉根
秋山月の桂川流ゆありしりん淮

やうしんく 館りよをうりやまよ。

是成朽木よ強をうき、暫休よ、やとおひる

わきなみは是成乞乞人カツガイニシ、五讀ゴウダクあくほま

一とやつまのあくら、彌マをうけるは卒

が宿めよ、ひいぬり、教化カタチナフして乃けぢやせ

おひゆヲキたよくは、わきに是成乞乞人。

おとせ、猶持たる、アシテも化ハシツ神色性シキシャツ也

半教婆ハーフキヤウモトカタチナフ、そこ立ち起スル年ノキ也

而ハに体シズへ、化ハシツ神色性シキシャツ乃て高タマヒ宣

へども、是成文字カタチナフへも刻カタツめる形カタチ也

一、只朽木と「我」うぐへされカタチナフ、御深山ミツヤマか

朽木なりを花カキ、おはねまかー、況カタチナフや

佛説よ刻めあまなどもあらうとあらふ
べきして我を除くまゝ埋めなきを心のを
のまづあればよ向よなどとの形はほん
体化体ともべき謂をいひて史卒お婆
を童女達はくまに生化してニ摩那
形を行ひあままふして行ひたせる形をい

うに地水火風空 あはれも聖か人の辯
元には隨のあえきそ 形もそれよなげ
まむ心ゆ済み乍るべし さて歎卒お婆の
功徳ひきよ 一見卒お婆女承三惡を
一見其起業お婆心あきもいうてのあとほ
べき つま黒挽かあはあと浮世をぞ厭

ぬそ して、ゆめりやをも厭ひてうへてそい
一セ わき 上心 あまき 美あるまをとせ 化神をも
とへ ウカタ 心をもとめあるまをとせ 化神をも
かくせるも て化神とあれまそ平教
はめよも近つまたまき ゆくがあと乳をもあ
きてあきよもそ 速もあへよるば卒
一品 先一、一、一、一、一、一、一、一、一
教婆妻を体もを苦へいの わき 丈夫順

縁よもりまどり して 運縁なるもとうりふ
べつま て 挽はめりゑも して 觀音のゑ也
わき 薬物のゑ也も 文殊の智也 究と
いふもして まもも わき が能といふも 番
挽なり て いわ して 桂木よあは
わき が能まくして まもも て 壱にあ
わき や

なまき財^{カニ}ハ化^{ハシメテ}も衆生^{スズメ}を福^{ハシメテ}か^ルキ^ト本^ウ
事^{アリ}也^{ハシメテ}病^{アリ}の凡^{ハシメテ}丈^{アリ}也^{ハシメテ}救^{ハシメテ}ん為^{アリ}也^{ハシメテ}
方^{アリ}便^{アリ}乃^{アリ}深^{アリ}ま^{アリ}摂^{アリ}乃^{アリ}願^{アリ}あれ^{ハシメテ}ば^{アリ}逢^{ハシメテ}孫^{アリ}あり^ト
う^{アリ}アベ^{アリ}ビ^{アリ}ヤ^{アリ}鬼^{アリ}よ^{アリ}サ^{アリ}せ^{アリ}ば^{アリ}誅^{アリ}よ^{アリ}懲^{アリ}れる^{アリ}
人^{アリ}なり^トと^{アリ}て^{アリ}僧^{アリ}も^{アリ}う^{アリ}べ^{アリ}を^{アリ}地^{アリ}よ^{アリ}つ^{アリ}きて^{アリ}三^{アリ}度^{アリ}
乳^{アリ}孩^{アリ}へ^{アリ}上^{アリ}我^{アリ}在^{アリ}生^{アリ}財^{アリ}力^{アリ}を得^{アリ}於^{アリ}威^{アリ}也^{アリ}

奇^{アリ}を^{アリ}よ^{アリ}も^{アリ}極^{アリ}らくの肉^{アリ}あ^{アリ}ば^{アリ}我^{アリ}あ^{アリ}か
らめ^{アリ}そ^{アリ}と^{アリ}何^{アリ}よ^{アリ}く^{アリ}る^{アリ}か^{アリ}え^{アリ}き^{アリ} あ^{アリ}の
一^{アリ}此^{アリ}僧^{アリ}の^{アリ}激^{アリ}化^{アリ} わ^{アリ}是^{アリ}が^{アリ}ふ^{アリ}も^{アリ}下^{アリ}

人^{アリ}よ^{アリ}て^{アリ}古^{アリ}乃^{アリ}名^{アリ}を^{アリ}易^{アリ}や^{アリ}と^{アリ}お^{アリ}ひ^{アリ}い^{アリ}ふ
も^{アリ}古^{アリ}も^{アリ}い^{アリ}成^{アリ}者^{アリ}そ^{アリ}名^{アリ}を^{アリ}名^{アリ}の^{アリ}た
ら^{アリ}此^{アリ}物^{アリ}を^{アリ}易^{アリ}ひ^{アリ}べ^{アリ} 一^{アリ}て^{アリ}お^{アリ}と^{アリ}お^{アリ}改^{アリ}

祐を仰り
醉を勧むる夢ハ
満月袖
小鶴あり
翫り狂便もあるみ
様のいは甚
程よ引く
上トリ
歩ヤクアヘ
モヤホウ
ヤアツク
ホウ
き跡
タリ
あ騒
セ
ス
ム
す
み
タ
れ
た
勢
く
は
双
脚
も
走
れ
ま
を
失
ふ
百
年
よ
一
と
わ
く
ぬ
ほ
く
も

物モノはひみヒミの界アメニを離ハグれ
ロシギロシギ肩カミよ持ハサウる体コトがよいヨイなほおをいきイキ
当タガて老シテかカきしシねネどもやま
れレをたタんと粟ヤマ豆トウ比ヒ飯バンを食エフよ入ス
持ハサウるよヨ後アフタおへる處カタよヨ
うきる衣アラカナナ腰ウエストよ魚アシカよヨ

白雲乃爲茅あすヤア破カツ蓑マム破カツ蓑マム
笠ハタケ雨ハリばう里マツリをかくカクさねサネばハしてトまマしてト裏マツリ
雪シロ雨ハリ波ハタケ渡カトリをだダふフもモおさサへヘきキ独ソラもモ袖スリ
ナメあアはハ丁タリ挂ガフ今イマハハ路ル近チよヨさサまマしシ往ハシ
来カミ人ヒトよヨ物モノ残リあアふフとト乞ガフぬヌ時ハ惡シ又アリ
詫ギ私ワタシ乃ノんンつツきキアアおオうウりリきキトトうウば

あアふフぬヌまマぐグのノうウなナふフおオ僧サムあアふフ わワきキノ
おオ僧サムのノうウ小コ河カ許カケへ通ハシふフよヨ わワきキノ
小コ河カよヨ何ナニうウつツあア生ハタチ事モノをヲハハ言ハシふフそ

いやイハ小コ河カといヒふフ人ヒ、ヒ緋ヒりにヒ色カラづヅゆユかカくクあ
あアこのコノもモまマこコれレ文ヒタチかカきカくクれレ海シマ
五月カブト有リ北ヒタチ室ヒタチ二ニ言ハシありアリすス一イ夜ナのノ忍ハシすスもモあ

あく今る年よなるうる報ふくあく人こ
ひじやあく人ゑじや わき
やう成者れ付そひじふそ して小町よを
魚一人ひまひよあふ中にもあひゆ
ま北吐四位のサ狗比同恨乃數の通りま
て車比禍よ画シダん日もあん時そタ

月丁そあよ通ひ説の閑カタツムリもありせせ
まあまトや生アヒタんナガミ 実ミタマ守モチめり
若とあるまトやお立タケル 洗ハラフたの脇ワカツ
いどつてテ上キ淨衣セイイ乃被カかいたりてテ立タケル鳥
帽ハットすふ風カク折ハサウエ猪シロクマ夜ヨクの神カミをすくりいとヤク
人ヒト月ヅキあとの通スルひぢれ月ヅキを引ハサウエ闇ヤマツチよも

黄蜜乃肌あまやうに花を佛より向
け、悦りの如きよりゆく

昭和十四年五月廿五日印刷
昭和十四年五月三十日發行

定價金五拾錢

著作者 寶生 新
東京市下谷區上野櫻木町四十八番地
發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流譏本刊行會



權能有

392
3
470

終

